

大学ソーシャルワークの可能性に関する試行的研究 ーキャンパスソーシャルワーカーの導入に向けてー

家族・地域支援学科 牧野 晶哲・杉本 豊和

研究目的

高校卒業者の大学全入時代を迎え、大学は従来の教育や研究重視の体制だけでなく、在籍している学生への支援体制の構築と対応が急がれている。学生が直面する課題としては、学費や生活を含む経済的問題、友人・恋愛関係のトラブル、心理・精神的な課題、授業理解や成績評価、進路や就職の悩み、成長過程を含む家族問題等、多岐にわたっている。また最近では、『孤食』『便所飯(トイレランチ)』の問題も多く報告され、仲間づくりや人間関係に苦慮する学生も増えているとの報道もある。

このような状況の中、多くの大学では健康管理を中心とした保健専門職の配置、またカウンセリングを中心とした心理専門職を配置して対応している。そして、近年、人間関係の調整や公的サービスの活用、学生のニーズに合わせた新しいサービス体制の構築、人権擁護等を行う福祉専門職を配置する動きがみられる。この福祉専門職の名称は、大学により様々であるが、一般的にキャンパスソーシャルワーカー(以下「CSWr」)と呼ばれる。

本学でも、学生委員会を中心として学生への支援体制の強化を図っている。3年前からは「学生生活相談」の時間を設け、教員が初期相談を中心とした対応を行っている。その他、「人権擁護委員会」の設置や、全教員が「オフィスアワー」を設定し、学生が教員に相談に行ける体制を整えている。しかしながら、予防的関与や初期対応が十分でないことも課題として残っている。また、学生相談室のカウンセラーも、増え続ける相談によって飽和状態になっているだけでなく、心理的

対応だけでは解決できない問題も多数報告されている。

そこで本学でも、増加し続けるとともに、相談内容が多岐にわたっている学生への相談支援体制を充実していくためにも、CSWrの配置を検討する必要があると考える。まず本研究においては、CSWrを配置していると同時に、積極的に事業を展開している大学の現地調査を行い、現在の業務やニーズに合わせた役割について把握する。その上で、本学でCSWrを導入する検討を行うことが妥当であるか検証していきたい。

キャンパスソーシャルワーカーの現状

(1) キャンパスソーシャルワーカーの役割

①相談種別

国際ソーシャルワーカー連盟の『ソーシャルワークの定義』によると、「ソーシャルワーク専門職は、人間の福利(ウェルビーイング)の増進を目指して、社会の変革を進め、人間関係における問題解決を図り、人々のエンパワメントと解放を促す」としている。この定義をキャンパスソーシャルワーク(以下「CSW」)に当てはめるならば、学生が抱える多種多様な人間関係や学生生活に関する課題解決を図ることによって、発病、不登校、退学等の問題を回避し、充実した学生生活を送る支援を行うこととなる。ただし、CSWrを導入している各大学とも、大学の実情や学生支援組織の形態も異なるため、統一された役割というものはない。一例として、CSWrが学生相談で受ける相談種別を分類したものを提示する(表1参照)。

[表 1]

大項目	中項目	小項目
修学	A 学業	学習、履修、単位、ゼミ、研究、留学、聴講 等 休学、退学、怠学、復学、留年、進級、編入、長期欠席 等 サークル活動、ボランティア活動、大学祭、委員会 等 言語、習慣、文化、宗教、食べ物、差別、孤立 等
	B 休学・退学・復学	
	C 課外活動	
	D 留学生	
進路	E 職業	就職、職種選択、資格・免許、各種証明書 等 進路、志望、生活設計、卒業、大学院進学、適正 等
	F 将来	
適応	G パーソナリティ	性格、情緒、能力、心理問題、癖 等 対人関係、交友関係、友人（他者との関係が中心）、孤立 等 恋愛、結婚、異性問題、DV、セックス、セクハラ 等 人生観、思想、信仰、生活目標、スピリチュアル 等
	H 対人関係	
	I 恋愛・性	
	J 人生観	
健康	K 身体	身体上の健康に関するもの、疾患、身体上の障害 等 精神保健（医療を要する程度）、精神安定（医療を要さない程度）
	L 精神	
生活	M 経済	生活費、学費、奨学金、アルバイト 等 アパート、寮、下宿 等 学外活動、余暇、消費生活、生活環境 等
	N 住居	
	O 暮らし・環境	
家族	P 家庭・家族	家庭問題・家族問題、親・兄弟姉妹の問題、虐待、暴力 等
その他	Q 集団支援	グループ対応、グループワーク、SST、学習支援グループ 等 上記 A～Q に含まれない相談
	R その他	

瀬川恵子（日本社会事業大学）作成の分類を一部加筆修正

また、学生や教職員に対する教育支援活動も CSWr の重要な役割の一つと考えられる。一例として、薬物使用禁止を呼び掛ける研修、性交渉やデート DV に関する研修、アカデミックハラスメントの防止に関する研修等を、CSWr 自身が担当したり、外部講師を招くなどして実施している。

その他、人間関係の構築に課題を抱える学生

[資料 1]

や、孤立してしまい大学内に居場所がない学生が気軽に集える場を提供する活動や、大学院生を活用しながら学習サポートを行う取り組みもある。

②基準

次に、CSWr の基礎資格や要件の現状について述べる。こちらも特別に基準が設けられていないが、現状から考えると以下の条件のいずれかを満たす場合が考えられる。

1. キャンパスソーシャルワーカーとしての配置

- ・大学で専任配置された CSWr
- ・大学で非常勤配置された CSWr

2. 社会福祉関係資格を有した相談員による学生相談

- ・大学で専任配置された学生相談に従事する者の内、社会福祉士や精神保健福祉士等に関する資格を取得していると同時に、ソーシャルワークの理念に基づき活動する者
- ・大学で非常勤配置された学生相談に従事する者の内、社会福祉士や精神保健福祉士等に関する資格を取得していると同時に、ソーシャルワークの理念に基づき活動する者

3. 社会福祉関係資格を有した教員による学生相談

- ・大学教員として勤務する者の内、社会福祉士や精神保健福祉士等に関する資格を取得していると同時に、ソーシャルワークの理念に基づき活動する者

このように、大学におけるソーシャルワーク実践が共通基盤にあることが条件であり、雇用形態

や職種については多様性を含んでいるのが現状である。

(2) キャンパスソーシャルワーカーの配置状況
 続いてCSWrの配置状況であるが、[資料1]
 にも示したように、定義も雇用条件も異なるため
 正確な人数を把握することは現段階では難しい。

ただし、CSWr 同士の連携を深めるため、キャン
 パスソーシャルワーカーネットワーク（以下
 [表 2]

「CSWNet」が構築されており、メーリングリ
 ストによる情報交換の他、学校ソーシャルワーク
 学会等で研究報告を行っている。現在、CSWNet
 に加入しているCSWrの所属大学（学部・キャン
 パス単位を含む）は、以下のとおりである。

大学名	学部	主な学科	備考（名称等）
東北公益文科大学 (▲)	公益	公益	学生共育支援室
東北大学	理学研究科, 理	数, 物理, 化学 等	キャンパスライフ支援室 OASIS (理学研究科)
独協大学	外国語, 国際教養, 経済, 法	ドイツ語, 英語, 言語文化, 経済, 経営, 法律, 総合政 策 等	保健センター精神衛生相談
淑徳大学 (▲○)	国際コミュニケーション	人間環境 等	学生総合相談支援室 (みず ほ台キャンパス)
日本社会事業大学 (▲○)	社会福祉	福祉計画, 福祉援助	学生相談室
富山大学	人文, 経済, 人間発達科学, 理, 工	人文, 経済, 経営, 発達教 育, 数, 物理, 化学, 環境 応用科学 等	学生なんでも相談窓口 (五福キャンパス)
日本福祉大学 (▲○)	社会福祉, 経済, こども発 達, 国際福祉開発, 健康科 学	社会福祉, 経済, こども発 達, 国際福祉開発, リハビ リテーション 等	学生相談保健センター (美浜キャンパス, 半田キャン パス)
大阪体育大学 (▲○)	体育, 健康福祉	スポーツ教育, 健康福祉 等	学生相談室
四国学院大学 (▲○)	文, 社会福祉, 社会	言語文化, 人文, 教育, 社 会福祉, 子ども福祉	キャンパス・ソーシャル ワーク・サービス
聖カタリナ大学 (▲○)	人間健康	社会福祉 等	学生相談室
大分大学 (▲○)	教育福祉科学, 経済, 工, 医	経済, 経営システム, 福祉 環境工学, 医, 看護	学生相談室 (且野原キャン パス), びあ ROOM (挾間 キャンパス)
南九州大学	環境園芸, 健康栄養, 人間 発達	環境園芸, 管理栄養, 食品 健康, 子ども教育	学生相談室
沖縄大学 (▲○)	法経, 人文	法経, 福祉文化, こども文 化 等	学生生活支援室

平成 23 年 3 月現在
 ※ (▲) は社会福祉士養成校
 ※ (○) は精神保健福祉士養成校

概観すると、社会福祉専門職養成に関わる学
 部・学科を持つ大学の場合、教職員の理解が得や
 すいと同時に、人材確保の点においても優位であ
 ることからCSWrの配置に結び付いていると考
 えられる。しかし今後は、学生への相談支援体制
 を強化するだけでなく、学業や人間関係形成に課

題を抱える学生を支援するためにも、複数の大学
 でCSWrの導入を検討しており、配置の動きが
 活発化するものと思われる。

実地調査の結果

本研究では、先駆的にCSWRを導入している大学から、施設見学を含めた聞き取り調査を行っ

[表 2]

	日本福祉大学	淑徳大学(国際コミュニケーション学部)	日本社会事業大学
CSWRの主な資格	社会福祉士, 精神保健福祉士	社会福祉士, 精神保健福祉士	社会福祉士, 精神保健福祉士, 保育士
勤務形態	常勤(週4日・美浜, 週1日・半田)	常勤	非常勤(週3日)
学内組織の所属	学生支援課 学生相談保健センター	学生総合相談支援室	学生支援課 学生相談室
関係部署及び職種	・保健室(看護師) ・学生相談室(専任相談員, カウンセラー)	・学生総合相談支援室(専任職員) ・総合キャリア支援室(専任職員) ・保健相談室(看護師) ・カウンセリングルーム(カウンセラー)	・保健管理センター(保健師) ・学生相談室(カウンセラー)
専有相談室の有無	有り	有り(※一部更衣室として使用)	有り(※カウンセラーと共有)
パンフレットに掲げる主な相談内容	・学業のこと ・家庭, 下宿のこと ・友人, サークルのこと ・性, 恋愛に関すること ・心の問題, 精神保健 ・経済上のこと ・ハラスメント, ストーカー, 恋人からの暴力 ・心配な友人のこと 等	・お金の悩み(学費, ローン返済, 経済事情, 医療費) ・心の悩み(不眠, 気分の落ち込み, パニック, 友人関係, 失恋, 拒食・過食, 自殺願望) ・日常生活のトラブル(ストーカー, 自動車事故, キャッチセールス, 国民基礎年金) ・依存(お酒, 薬物, インターネット, 買い物, ギャンブル, 恋愛) ・セクシャルヘルス(避妊, 妊娠, 人工妊娠中絶, 性感染症, デートDV, 性暴力被害)	・授業・実習, 進路の相談 ・友達・恋人・家族の人間関係 ・自分の性格 ・やる気が出ない, 集中できない ・イライラや不安で落ち着かない ・何となく気分が落ち込む ・食べられない, 食べ過ぎる
利用方法	・直接訪問(メール, 電話予約可), 電話相談	・直接訪問(電話予約可), 電話相談	・直接訪問(電話予約可), 電話相談 ・連絡ポスト(CSWRから連絡)
その他特徴的な事業	・メーリングリスト(安心安全ネット) ・障がいのある学生の方向け就職ガイダンス(障害学生支援センター企画:外部委託) ・キャンパスハラスメント相談窓口 等	・性に関する基礎知識講座 ・海外留学生違法薬物, セクシャルヘルスオリエンテーション ・GPA不振者との面接 等	・友人作り, 情報交換のスペース(ゆっくり単位取得する人Den) ・相談室開放(たべり場) 等

※平成23年3月現在

①日本福祉大学

日本福祉大学では、全学生に対する女子学生の比率が比較的高いこと、また美浜キャンパスは郊外に立地していることから、ストーカーや痴漢等の性的被害が報告されている。その対策として、学生相談室を中心としてハザードマップを作製し、学生へ配布して注意を促している。またメーリングリストを活用して、事件や不審人物出没の情報提供等を行い、予防や早期対応に努めている。

た(表2参照)。表に掲載した概略や各大学のCSWの特徴は以下のとおりである。

また障害のある学生が多数在籍していることから、当大学では「障害学生支援センター」を設置し、相談や支援、さらには学生ボランティアの募集や教職員との連絡調整等も行っている。近年は発達障害のある学生も多く在籍しているため、人間関係の問題や学業不振に関する相談も増加しており、CSWRも連携しながら対応している。

その他、配置されたCSWRのキャリアを生かし、キャンパスハラスメントの相談支援や予防の

働きかけを積極的に行っている。

②淑徳大学

淑徳大学では、学部によってキャンパスが分かれているが、CSWrが配置されているのは国際コミュニケーション学部（みずほ台キャンパス）になる。当学部では、CSWr配置以前から、学生支援相談室によって学生相談を受けると同時に、教員からの気になる学生の報告、教務で把握している学生の履修状況や生活状況に関する情報が集積されていた。そして平成21年度から、カウンセラーの補充予算を活用しCSWrを導入した。

また当学部では、学生の海外留学が盛んである。そこで、配置されたCSWrのキャリアを生かして、薬物使用禁止に関する講演や、海外留学を含めた性教育に関する講演も積極的に実施している。

その他、GPA不振の学生に対する面談も行い、必要に応じて学業支援体制を構築したり、仲間関係づくりのためのサポートも行っている。

③日本社会事業大学

学内組織である学生委員会からの働きかけにより、学生支援課に平成21年度からCSWrを週1日配置し、平成22年度からは週3日勤務となった。CSWr不在の日にはカウンセラーが配置されているため、常時、学生相談に応じられる体制となっている。ただし共に非常勤であるため、連絡ノートでの情報共有の他、月1回ほど、保健センターを含めた会議を設けている。

また当大学は、少人数制の単科大学であり、さらに病院や施設に囲まれた環境で最寄駅や繁華街から外れていることから、キャンパス以外に学生の居場所が少ないという課題がある。そのため、大学内での人間関係に課題を抱える学生に対するサポートして、居場所づくり事業を積極的に行っている。

本学でのキャンパスソーシャルワーカー導入の意義

①学生数の増加

本学では、これまでの短期大学に加え、2005（平成17）年に4年制の子ども学部子ども学科を開設し、以降、2009（平成21）年に子ども学部発達臨床学科、2010（平成22）年に子ども学部家族・地域支援学科を立ち上げた。発達臨床学科、並びに家族・地域支援学科は完成年度を迎えていないため、今後も学生数は急激に増加することとなる。このような中、保健センターの医師や保健師による健康相談、また学生相談室のカウンセラーによる学生相談だけでは、十分な学生支援体制が整っているとは言い難い状況にある。

特に[表1]にも分類してある『生活』や『家族』は、現段階において相談支援する窓口がない。近年の不況並びに東日本大震災により、家庭の収入に少なからず影響を受けている学生も多いと思われる。大学では学費についての相談や、奨学金制度の利用に応じることは可能でも、各家庭の生活支援や再建について相談に応じることは難しい。さらには、各家庭が抱える家庭問題の解決に向けた働きかけは行っていない。学生の生活基盤を調整する専門職を配置することは、学生の充実した学生生活を確保することにもつながるため、十分意義があると考えられる。

②キャンパスの立地及び学内施設

本学は小平市の西部に位置しており、周囲は文教地区及び住宅地となっている。また近隣に玉川上水が流れ、自然豊かな落ち着いた環境でもある。最寄駅は西武国分寺線の鷹の台駅となるが、都心に直通する路線でないことから、駅前に地元の商店街が形成されている程度で、繁華街と呼べるような地区は駅前にも大学近隣にもない。また大学構内も余剰教室はなく、学生総数に見合うだけの学食の席数や、学生スペースが確保されているわけではない。

そのため、特に友人関係に困難を抱える学生にとっては、友人との利用が多い学食や学生ホールの利用は敷居が高く、かといって大学近隣地域にも一人で利用できる店舗がないため居場所がな

く、大学から足が遠のいてしまう一因にもなっていると考えられる。現在、学生相談室において昼食時にスペースを開放しているが、勤務状況や職務内容から考えても、曜日や時間を限定しなければ対応できない状況である。職員の管理下にありながらも、学生が昼食等で利用できるスペースを常時開設する必要はあると思われる。さらにスペースに集まった学生同士で交流できる機会を設けたり、修学や生活に関する初期相談に応じたり、学内外の他部署・他機関への相談へとつなげるCSWの機能は、学生支援の新しい形になると考えられる。

③資格・免許取得と進路選択

本学は、子ども学部のみ単科大学であり、保育や幼児教育、並びに社会福祉関係の資格や免許取得に特化したカリキュラム構成となっている。入学時から卒業に向けて志望職種や希望資格・免許が変化しない学生にとっては、非常に充実したカリキュラムと教育支援体制が整備されていると考える。

しかし大学全入時代を迎え、学生の基礎学力や生活能力の低下は避けられない課題となってきた。また発達障害等を抱え、特別な支援と配慮を必要とする学生の入学も増加すると思われる。しかし専門職養成に携わる大学にとっては、社会から要請される質の高い学生を輩出しなければならない課題も抱えている。本学でもGPAを導入したが、今後は一定基準を下回る学生や、特別な支援や配慮を必要とする学生に対し、学力支援を本格的に行っていく必要があるだろう。この際には各教員だけでなく、教務課やカウンセラーとも連絡調整をすると同時に、学生の希望や能力に応じたチューターをマッチングさせるCSWの役割は重要になると考える。

今後の研究課題

本研究の現地調査では、CSWの実態を理解するため、各大学における役割や、実際の業務を中心に聞き取り調査を行った。今後はCSWの

導入に向けて、調査研究を具体化させていく。まずは財政基盤や大学内での組織的位置づけを検討し、本学で導入する場合のシミュレーションを行う。また、本学で必要とされるCSWの専門性を検証すると同時に、相談支援体制を充実させるための環境整備も検討していきたい。

謝辞

本研究に際し、訪問させていただき、見学や貴重な資料をご提供いただきました日本福祉大学、淑徳大学、日本社会事業大学の関係者の皆様方に御礼申し上げます。

尚、本研究は教育・福祉研究センターの助成金を受けて実施しました。

参考文献・資料

- ・和田秀樹著「なぜ若者はトイレで『ひとりランチ』をするのか」祥伝社(2010)
- ・NHK特報首都圏「“ひとり”が怖い」(2010年4月23日放送)
- ・日本福祉大学 野中猛「スクールソーシャルワークをめぐる研究報告書(平成19～21年度厚生労働科学研究費補助金「思春期精神病理の疫学と精神疾患の早期介入方策に関する研究」)」
- ・東北大学高等教育開発推進センター編「大学における学生相談・ハラスメント相談・キャリア相談」東北大学出版会(2008)
- ・吉岡和子、高橋紀子編「大学生の友人関係論」ナカニシヤ出版(2010)
- ・鶴田和美他編著「事例から学ぶ学生相談」北大路書房(2010)
- ・福田真也著「大学教職員のための大学生の心のケアガイドブック」金剛出版(2007)
- ・日本福祉大学HP
<http://www.n-fukushi.ac.jp/>
- ・淑徳大学HP
<http://www.shukutoku.ac.jp/>
- ・日本社会事業大学HP
<http://www.jcs.ac.jp/>